

# 白藍塾オリジナル

## 2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ● 慶応・経済学部

説明問題(200字)＋小論文問題(400字)の2本立てという形式は、例年通り。今年は課題文も1つに戻った。課題文の内容も、それほど難しくないだろう。簡単にまとめると、次のようになる。

「現代の世界におけるアメリカの存在の大きさは、ドルと英語が世界の基軸通貨・基軸言語として使われていることによる。それは、世界中の人々がアメリカの貨幣と言語を使わざるを得ないということだ。そのため、基軸通貨国には、世界経済を混乱させないように世界全体のことを考えて振る舞う責任がある。だが、現在のアメリカは国力が低下していて、かつてのように基軸国としての責任を持った行動ができなくなってきている。基軸通貨体制の崩壊は世界的な危機をもたらすだけに、日本のような非基軸国も自国のことだけを考えず、アメリカを監視し、協力する責任がある」

設問Aでは、「『大きなアメリカ』を成立させている条件のなかで、通貨が果たしている役割」の説明が求められている。これは、課題文が普通に読めれば問題ないはず。2部構成のA型に従って、アメリカが基軸通貨国であることが「大きなアメリカ」を成立させている条件であることを示した上で、なぜそう言えるのかをくわしく説明するとよいだろう。

設問Bでは、「あなたが今後も続くと考える、支配関係は存在しないが、非対称的な関係にある具体例」を挙げた上で、「そこでの両者の責任」について論じることが求められている。

「非対称的な関係」というのは、課題文にもあるように、単純な支配－被支配の関係ではないが、対等な関係とも言えないということだ。日本はアメリカに支配されているわけではないが、基軸国であるアメリカの振る舞いに強い影響を受け、行動を左右される。そうした関係を表していると言ってよいだろう。

こうした問題は、適切な具体例を思いつけるかどうかで勝負が決まる。すぐに思いつくのが、「教師と生徒」「医師と患者」「企業と消費者」「政府と一般市民」「先進国と途上国」などだろう。ただ、個人間の関係の例はやはり書きにくいので、現代の社会・経済状況と結びつけて論じられる例のほうがよいはずだ。例えば、「企業と消費者」「政府と一般市民」の場合、企業や政府は社会・経済に大きな影響力を持っているので、それに見合った責任(とくに説明責任)を担う必要があるが、消費者や市民にもそれらを監視したりチェックしたりする責任があり、両者が協力して健全な社会・経済を築く必要がある。

そうしたことを書けばよい。

通常の4部構成では書きにくいので、A型を2つ積み上げる感じにするとよい。前半では、まず具体例をズバリ示し、それがどのように「非対称的」なのかを説明する。そして段落を変えて、「そこでの両者の責任はこうあるべきだ」とズバリ示した上で、なぜそう言えるのかをくわしく説明するわけだ。

字数が少ないので、掘り下げる必要はない。課題文の提示している問題が理解できていることをアピールできれば、それで十分だ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>